

進化を続けて40年

# 日本の気候風土が育んだ木材保護塗料

## キシラデコール

日本エンバイロケミカルズ  
http://www.xyladecor.jp

木材保護塗料の代名詞として建築の現場で定着している日本エンバイロケミカルズの「キシラデコール」。日本独特の使用環境や要求に応えるべく進化を続け、日本で発売を開始してから今年で40周年を迎えるロングセラー商品である。

**日本仕様にアレンジ**

油性タイプのキシラデコールは、有効成分が浸透して内部から効果を発揮する含浸タイプの塗料。最大の強みは、塗膜によっ



熊本城築400年を記念して、2008年に復元された「本丸御殿（手前）」にもキシラデコールは採用されている

て木材を保護する造膜タイプに比べて、木目を生かした自然な仕上がりになること。防霉・防カビ・防虫効果を発揮する成分が配合されているため、美装を実現しながらしっかりと木材を保護することができる。

もともとキシラデコールは欧州で開発された塗料である。温暖で湿潤な日本と降水量が少ない欧州では使用条件が異なるので、日本の気候風土に合うようにアレンジすることが求められるが、同社は、日本向けに各成分を最適化。それが、木材保護塗料のデファクトとして日本に定着する素地となっている。

### 多様化に対して的確に対応

多様化する日本市場のニーズに真摯に応え続けていることも成功の秘訣。それは数々の製品で表現されている。まずは、白木用の「キシラデコールやすらぎ」。白木に美を求め、着色しな

いで木材を使用するのは日本独特の文化であるが、木材を劣化させる紫外線を効果的に除去するには顔料が不可欠となるため、紫外線を通過する透明タイプの塗料は、欧州では考えられない。

一方、同社は日本市場向けの塗料を送り出すため、あえてこの矛盾に取り組んだ。結果的に、特殊な成分を配合することで透明感を確保しながら紫外線カットに成功し、1993年に製品化。「現在まで、住宅だけでなく神社や仏閣などでも採用が進んでいる」（保存剤事業部 事業部長 道正伸氏）という。

低臭タイプの「キシラデコールフォレストージ」は、ユーザが溶剤の臭いに敏感に反応する近年の傾向を踏まえて、開発された製品。油性は木材との相性が良く、好仕上がりという利点があるが、施工中の臭いが問題視される。そこで、同製品では従来のキシラデコールとは異なる低臭タイプの溶剤を採用し、同じ油性でも臭いを抑えた。施設を利用しながら塗装が行えるので、高級ホテルを皮切りに、福祉施設や幼稚園といった公共建築物でも採用されている。

同社では造膜タイプの水性塗料「コンゾラン」も提案している。海岸沿いや雪国といった気象条件の厳しい場所でも能力を発揮



保存剤事業部 事業部長 道正伸氏

できる製品だ。

その理由は塗膜にある。柔軟性に優れて木材の伸縮によく追従できるため、密着性が高く、塗膜の割れや剥がれ、ふくれが発生しにくい。さらに、塗膜に通気性があるため、木材中の水分を逃がすことができる。

下地の影響を受けにくいのも強みの1つ。キシラデコールを再塗装する際、以前よりも濃色を選ぶときれいに仕上がるが、何度か塗り重ねられた木材にはコンゾランが有効である。

### 塗料で木造の復権を後押し

「建替えからストック重視へ」という風潮のなかで住宅の長寿命化が求められるようになり、木材を長持ちさせる保護塗料の重要性が増している。「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」によって木造建築にも追い風が吹いている。一方、確実に保護効果を発揮するために、塗料の選択が重要な



保存剤事業部 木材保存剤営業グループ 東日本チーム テクニカルアドバイザー 小林勝志氏

なってくる。

最近、日本建築学会の建築工事標準仕様書、さらには各省庁の統一基準となる公共建築工事標準仕様書などに木材保護塗料の仕様が新設され、木材保護塗料の性能が明確に規定されるようになった。キシラデコールは規格適合品としての認定を受けており、公共工事や通常の現場で安心して使用できる。

今後同社は、木材や塗料に関する情報発信に力を入れていく方針で、樹種ごとに注意点をアドバイスできるノウハウも蓄積している。「木材を使うことは炭素の固定につながり、環境に貢献できる。木材の利用を促進する。が我々のミッション。木に関する啓蒙活動にも力を入れていく」（保存剤事業部 小林勝志氏）。需要が拡大すると見られるDIYに対しても、木を守る。を合言葉に、さまざまなニーズに対応できるよう製品ラインアップを充実させていく方針だ。

文：出町正義 人物撮影：編集部